清新一中学校だより

出会いの泉

令和６年度　第６号　令和６年１０月２日発行

教育目標
○自ら学び 進んで働く生徒
○心身ともに健康な生徒
○自他を尊重して
　　協調性を発揮する生徒
○社会に対する責任を自覚して
　　実践する生徒

言語の習得

校長　松木　千明

９月２０日、第２学年の生徒と「TOKYO　GLOBALE　GATEWAY（青梅)」に行ってきました。丸１日、異空間（外国の雰囲気）の中で、いろいろな国の外国の方と英語で会話をしてきました。生徒たちの様子を見ると、とても緊張している人、非常に陽気に話す人、ちょっと遠慮している人などさまざまでした。しかし、生徒にとって、日本語でない言葉で、外国の人たちと会話をしたことは、大きな経験とともに、大変勉強になった一日であったように思います。異空間で頑張って会話をしている生徒の様子をみながら、言葉について考えてみました。

人として生まれ、親が話している言語を知らず知らずに私たちは習得しています。そして、私たちはその言語を使って会話をしています。多くの人は、日本語の家庭で育てば日本語、英語の家庭で育てば英語、中国語の家庭で育てば中国語を話すようになります。無意識にその言葉を覚えて成長しています。たぶん、０歳では、自分の気持ちを泣いたり、笑ったり、怒ったりで周りの人たちに伝えます。しかし、少しずつ成長するにつれて、自分の気持ちを言葉で伝えることを学び、だんだん、たくさん言葉を覚え大人になっていくのです。つまり自分の気持ちを伝える必要があるから、無意識に言語が習得できたのです。

しかし、生活では利用していない二つ目の言語を習得するには、無意識では習得できません。二つ目の言語で自分の気持ちを伝えなくても、生活はできますし、生きていくことはできます。つまり、意識的にその言語を使って、相手に自分の考えや気持ちを伝える機会をたくさんつくり実践していくことが必要なのです。それが、今回の２年生の「TOKYO　GLOBALE　GATEWAY」の取組だったのです。丸一日、多種多様な生活の状況を想定し、自分の気持ちや考えを英語で話すのです。

今の学校教育では、「話すこと」を非常に大切にするようになりました。英語の授業でも、「話すこと」の経験がたくさんできます。また、全学年でスピーキングテストも実施されます。是非、いろいろな場面で、英語で自分の気持ちや考えを話すことに意欲的に取り組んでほしいと思います。私も外国で生活した経験があります。母国語でない言語で、相手に自分の気持ちや考えを伝えることは、頭をフル回転して話すので、最初の２，３か月は生活をするのに、とても疲れたことが記憶に残っています。しかし、大変ですがたくさんの言語を話すことができるようになると、人の輪も広がりますし、人としての考え方も深まります。是非、母国語でない言語の習得に挑戦し、多くの言語を話し、グローバルな世界で生きる人になってほしいと思います。